秋田大学教育文化学部附属小学校　校　報

はとの子だより

Ｎｏ．９　令和４年１１月３０日（水）発行

学校教育目標　　自律　　のびのび　きびきび　わくわく

子どもの本気を引き出す　ーはとの子学習発表会・オープン研修会ー

ぴんと張り詰めた空気がアリーナを覆っています。自分の立ち位置は適切か、隣の友達と十分な距離を保っているか、唇と喉は十数秒後の発声に備えているか…。

心の中で一つ一つ確かめていると、正面に先生が立ちました。先生が、「さあ始めるよ」と一人一人にまなざしを送り、ピアノの前奏が緊張感で包まれた空気を解きほぐしました。

これは自分の声だろうか。あの声は友達の〇〇さんの声だったろうか。いつもと少し違うような気がしているうちに、みんなの声がひとつに溶け合ったような感じがしてきました。

夢中になって声を出し、体を動かしていたら、いつの間にか終わっていました。満足できるほどやりきることができたかどうかは分からないけれど、退場するときは自然と胸を張って、前を見据えて歩いていたことに気が付きました。

こんな子どもたちの心の中が見えてくるような、はとの子学習発表会でした。平成１１年に「はとの子発表会」という名称でこの行事を立ち上げてから、早くも２４年目となりました。名称こそわずかな変化がありましたが、「日々の積み重ねの中で、子どもの本気をどのように引き出すことができるか」という一点に関しては、終始一貫して大切にしています。

「本気」というのは、表現する題材を深く読み解き、その世界観に没入し、その世界に自分の居場所を見いだし、周囲の人とのつながりによってより自分らしさが発揮できていることを実感したときの、子どもたちの心のもちようです。

発表会前日、こんなことをお家の方に話した子どもがいたそうです。

「みんな真剣に自分たちの世界を表現するんだから、客席から手を振ったりしないでね」

この言葉に、発表会の本質が凝縮されているように感じます。

久しぶりに参観してくださった保護者の方々の熱いまなざしと清々しい拍手が、どんなにか子どもたちの心に染みたことだろうと思います。ご来場、ありがとうございました。

子どもの「本気」は、発表会だけで引き出せるものではありません。本校が重要な使命のひとつとしている学習活動の充実が、全ての教育活動の下地をつくります。

９月から１１月にかけて、本校の授業研究の取組を外部に発信する「オープン研修会」は、どうしたら子どもの「本気」を引き出すことができるか、全教員で考え合う機会でした。

６年生の外国語科の授業では、「夏休みの思い出を伝え合う」活動に取り組みました。

ある子どもは、キャンプに行ったときの思い出を伝えようとして、適切な英語表現を探っていました。「What did you see?（何を見たの？）」と尋ねられ、しばし考えたのち「Tree!Tree!Tree!（木！木！木！）」と身振りを加えて連呼しました。「たくさんの木々に囲まれていたんだ。自然豊かな場所だったんだよ。」と言いたかったのでしょう。適切な語彙が思い浮かばなくても、知っている語彙と身振りでなんとかして自分の感動を伝えようとしたことが分かります。表現者として「本気」になるきっかけをつかんだ瞬間だと感じました。

探究の芽を育む　大学教員による出前授業

秋田大学教授で本校の元校長でもある林信太郎先生による出前授業が、６年生を対象に実施されました。もちろん内容は林教授の代名詞とも言える「火山の仕組み」についてです。

炭酸飲料に発泡性の錠剤を入れ、火山が噴火するメカニズムを分かりやすく説明してくださいました。学問の世界の本物を目の前にした子どもたちの食い付き方が違いました。

合唱部　全国大会銀賞！

合唱部が、全日本合唱コンクール全国大会（大阪・堺市）で見事銀賞に輝きました。全国規模の大会で銅賞以上の賞をいただいたのは、これが初めてです。おめでとうございました。

授業参観・懇談会

１１月２４日（木）２５日（金）の授業参観と懇談会では、久しぶりに多数の保護者の皆様をお迎えでき、子どもたちの張り切りようが違いました。お忙しい中ご来校くださったご家庭の方々に、改めて御礼申し上げます。

季節の生け花

職員・来客用玄関前にいつもすてきな生け花を飾ってくださる村井さんから、今回も色鮮やかな生け花をご提供いただきました。柊黐（ひいらぎもち）、もみの木など、選材からお分かりいただけるとおり、クリスマスカラーが基調となっています。毎日、職員や来客の目を楽しませてくれるご厚意に感謝します。